

種子島でプラチナ社会を 創造しよう

自然と共生するスマートエコアイランド種子島 シンポジウム



「プラチナ社会」総括寄付講座は、東京大学が部局横断で全学的に取り組む寄付講座として2012年4月に総長室に設置されました。本講座では、エコで、高齢者が積極的に参加し、一生を通じて人が成長を続け、雇用がある社会を意味する「プラチナ社会」を実現するための、理論的背景の整理、知の構造化による課題解決のフレームワークづくり、普及展開方策に関する研究を行っています。また、本講座は、研究成果の「社会実装」を重視し、実際に各実施主体が実装できるようにその方法論の研究も行っています。アウトリーチ活動も積極的に展開し、社会へと発信することで研究成果の価値をより高めることを目標としています。

高齢化や少子化、地方の過疎化と産業の衰退、そして気候変動や生態系の破壊など現代社会における諸問題は離島で先鋭化しており、種子島でも緊急に対応する必要があります。そこで、これまでの島内の議論を踏まえ、さらに豊かな地域資源と最先端の科学技術を活かして持続可能な未来を共に描き、その未来を実現して行くための出会いと学びの場を創りたいと考えています。

このたび、島内外の大学、企業、研究所などの新たなメンバーとともに、本シンポジウムにおいて設立する「種子島発芽フォーラム」では、関わる皆さん全員が主役であり、教師であり、生徒です。島という小さな地球を持続可能にするためにそれぞれの専門や立場を活かして知恵を絞り、豊かな地域を創造するための革新を進めて参ります。

講師略歴

大久保 達也 | 東京大学 総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座代表
大学院工学系研究科 副研究科長 / 化学システム工学専攻 教授

1988年東京大学大学院工学系研究科化学工学専攻博士課程修了(工学博士)。1988年九州大学工学部助手。1991年東京大学工学部助手。1994年同講師。1997年東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻助教授。2006年より同専攻教授。2014年より東京大学教育研究評議会評議員・工学系研究科副研究科長。この間、1993-94年米カリフォルニア工科大学客員研究員、1997-2000年科学技術振興事業団さきがけ研究者、2002-06年科学技術振興機構戦略創造推進事業研究者を兼任。専門はプラチナ社会、化学工学、材料化学。化学工学会奨励賞(1992年)、化学工学会研究賞(2009年)受賞。

武内 和彦 | 国連大学上級副学長
東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構構長・教授

1976年東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。農学博士。1997年同研究科教授を経て2012年4月より東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構長・教授。2013年1月より国際連合大学上級副学長。専門は緑地環境学、地域生態学、サステナビリティ学。中央環境審議会会長、食料・農業・農村政策審議会会長代理などを兼任。サステナビリティ学の構築を目指し、SATOYAMAイニシアティブなどを通じて、国内外に向けて持続可能な自然共生社会の実現に向けたビジョンを提言している。著書に「世界農業遺産」(祥伝社新書)、「日本の自然環境政策-自然共生社会をつくる」(共編著、東京大学出版会)など多数。

福士 謙介 | 東京大学 スマートエコアイランド研究拠点代表
国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構 教授

1989年東北大学工学部土木工学科卒業、1996年米国ユタ大学大学院土木環境工学専攻博士課程修了。Ph.D.(土木工学)。1996年東北大学助手・講師、1999年アジア工科大学講師・助教授、2001年東京大学助教授・准教授を経て2013年東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構教授。専門は環境工学、エコヘルス、サステナビリティ学。(公社)日本水環境学会理事(アジア連携担当)。2013年よりCOI-T舞台として「スマートエコアイランド研究拠点」の研究リーダーを務め、佐渡島を舞台に島嶼のサステナビリティを研究している。

菊池 康紀 | 東京大学総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座 特任講師
種子島 発芽フォーラム設立準備会 メンバー

2009年3月東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻にて博士課程修了、博士(工学)。同年4月より同専攻助教。2012年4月より東京大学総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座にて特任講師。専門は、プロセスシステム工学、知識の構造化。2012年7月から同大学院工学系研究科化学システム工学専攻 特任講師を兼任、2013年5月より九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)・訪問研究者、2013年6月より千葉大学環境健康フィールド科学センター・客員准教授、2014年5月より科学技術振興機構 研究開発戦略センター・特任フェローを兼任、日本LCA(ライフサイクルアセスメント)学会 学会賞(論文賞)(2011年)を受賞している。

杉本 明 | サトウキビコンサルタント
種子島 発芽フォーラム設立準備会 メンバー

1975年東京教育大学大学院農学研究科修士課程修了、同年沖縄県八重山支庁農林水産課、1979年沖縄県農林水産部農業試験場にてサトウキビ研究を開始、1986年農林水産省熱帯農業研究センター沖縄支所にて熱帯作物の育種法研究、1992年農林水産省九州農業試験場種子島試験地にてサトウキビ育種研究、2004年農林水産省九州・沖縄農業研究センター作物機能開発部長、2008年国際農林水産業研究センター熱帯育種素材研究管理担当、2010年国際農林水産業研究センター特別研究員を経て、2013年よりサトウキビコンサルタント。サトウキビについては育成品種が凡そ30品種あり、特許を2件取得している。熱帯農業学会賞学術賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、地球環境大賞(組織受賞)、タイ農業局長感謝表彰などを受賞している。博士(農学)。

福島 康裕 | 東北大学大学院工学研究科化学工学専攻 准教授
種子島 発芽フォーラム設立準備会 メンバー

2002年3月東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻にて博士課程を単位取得のうえ満期退学。同年4月より同専攻助手。同年6月に博士(工学)を授与される。2004年8月より国立成功大学(台湾)の環境工学系にて助理教授、2010年2月より同、副教授。この間、2010年9月より永續發展跨領域學分學程(サステナビリティに関する学際プログラム)のディレクターをつとめる。リサイクル、環境保護、エネルギー関連の新技术や新しい社会の仕組みの設計と評価手法を研究するとともに、持続的發展に関する高等教育や、利害関係者のキャパシティビルディングの推進にも取り組んでいる。2014年8月より、東北大学大学院工学研究科化学工学専攻准教授。

お問い合わせ先

シンポジウム事務局
Tel/Fax: 03-5841-1596
E-mail: sympo@platinum.u-tokyo.ac.jp

会場

ホテルニュー種子島(コンベンションホール)
鹿児島県西之表市東町10番地
Tel: 0997-23-4567

